

接続詞

接続詞には、文と文、語と語、といった対等なものをつなげる等位接続詞と、従属節（文をまとめて副詞や名詞のような文の「要素」としての働きをもたせたもの）を主節につなげる、従位接続詞がある

等位接続詞には次のようなものがある

付加・列挙	and
二者選択	or
対立	but
否定的付加	nor

従位接続詞には次のようなものがある

比較	as, than, like
条件	if, unless
対立	(al)though, while, whereas
度合・程度	as
場所	where, wherever
原因と理由	because, as, since
結果	that
間接疑問	whether, if
間接陳述	that
時	同時 when(ever), while, as 前 before, until, till 後 after, since 場合 once, when, whereupon

複数の語が組み合わされて使われる複合接続詞の捉え方

both A and B	both という代名詞が A and B という同格の 2 つの名詞で言い換えられている
either A or B	either という代名詞が A or B という同格の 2 つの名詞で言い換えられている
not A but B	A を否定し、but という「対立」を表す接続詞で、B であることを表している
not only A but (also) B	A だけであることを否定し、but という「対立」を表す接続詞で、B でもあることを表している

as soon as	I got my coat off as soon as I entered the room. の最初の as は soon という、文に情報を追加する時を表す副詞に対する早さの程度（それくらい早く）を表し、次の as は比較を受ける接続詞で、合わせて「私が部屋に入ったと同じくらい早く→部屋に入るとすぐ」という意味になる
------------	--

even if	even は、意外・驚きをもってレベルの高さ・低さをあらわす程度の副詞で、if を強調し、「たとえ～であっても」という意味を表す
as if	as は「その通り」という意味の程度を表す副詞で、if と合わせて、「まるで～かのように」という意味を表す

前置詞

前置詞は、前置詞+名詞として前置詞句を作り、前置詞の目的語に対する位置や方向を表す

前置詞に使われる語の多くは、動詞に動作の方向を付け加える副詞としても使われる

前置詞の基本イメージ

at	「(大きさを持たない) 点」
on	「面や線に接している」
in	「囲まれた空間や範囲の中にある」
by	「何々のそば」(行為者はそばに居る)
for	「ある地点までの途中」で、方向を表す。
to	「到達」
across	「(何かを) 横切る」
of	「分離・関係」
with	「対象から離れたものが向かってきて一緒になる」
over	「上を通過」
through	「通り抜ける」
about	「～のまわり (外側)」
above	「位置が上方」
after	「後に続く」
against	「対象に向かう力と力をかけたとき対象が押し返してくる力の感覚」
among	「個々の何かを意識しないものの間」
between	「個々の何かを意識するものの間」
along	「長手方向の動き」
before	「(おもに時間や順番という場合の) 前」
beyond	「何かの反対側の向こう」
from	「起点から離れる」
during	「期間中」
into	「～の中へ」
around	「～のまわり (周囲)」
under	「何かの下」
as	「～のとおり」
upon	「上方から接触」
without	「つながりなし」
within	「範囲内」

副詞

副詞は文や語に情報を付け加えたり、文の外側にある、文が成立つ前提や文に対する評価などを示したりする品詞

基本文に情報を追加するもの

様態など状況補語	well, hard, how, fast, slowly, quickly, now, then, soon, recently, etc. (原則として基本文の後)
----------	--

語に情報を追加するもの

場所方向	above, up, down, in, out, upstairs, etc. (原則として動詞を後ろから修飾)
------	---

程度	very, much, really, quite, too, so, not, rather, fairly, etc. (語を前から修飾)
----	---

頻度	always, never, often, rarely, sometimes, etc. (原則として動詞を前から修飾)
----	---

強調	ever (動詞を前から修飾)
----	-----------------

関係代名詞

関係代名詞とは、This is the book which I bought yesterday. (これは昨日買った本だ) のように、名詞（この場合は the book）を、文で修飾するための方法

所有格	whose
主語	which や who
目的語	which や who(m) whom はやや古風な使い方

先行詞が前置詞の目的語になるとき

かつては This is the knife with which he was killed. のように、前置詞を関係代名詞の前に置くのが正しいとされたが、現在では、This is the knife which he was killed with. と、関係節の中に置かれるのが一般的

that という関係代名詞

that は「なめらかににつなげる」機能を持ち、「名詞」としての機能は弱い My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような、非制限用法の場合は、my house と which の間にカンマがあり文が途切れているため、which の代わりに that を使うことはできない

同様の感覚で、This is the knife with which he was killed. のような、前置詞が関係代名詞の前に来る文にも、which の代わりに that を使うことはできない

制限用法と非制限用法

This is the book which I bought yesterday. のような、関係代名詞が先行詞を数多くのもののうちから特定するような使い方を制限用法といい、My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような説明を加えるだけの使い方を非制限用法という

形容詞

形容詞は「もの」の状態や性質を表現する品詞

2通りの使い方

This is a red flower. の red のように、名詞の概念そのものを変更する modifier (モディファイア : modify 部分的に変更 er するもの) としての使い方は、flower という名詞を red flower という別のものに変化させている

This flower is red. の red の場合は、名詞そのものを変化させることはなく、単に説明しているだけ

関係副詞

関係副詞は、This is the town where I was born. (これは僕が生まれた町だ) の where のように、先行詞 (the town) に情報を付け加えるために使用されるもの。関係副詞は、I was born in the town のように、先行詞を副詞化 (in the town) して、関係副詞以下の文に繋いでいる

名詞

名詞の認識の仕方

限定詞が付いているか	付いていれば 付いてなければ
実体なら可算か不可算か	形の定まり 時間軸上に現れる 形の無いもの
単数か複数か	単数 複数

集合名詞

普通名詞	形のあるもの 時間軸上に現れる hour, earth
物質名詞	形のないもの 構成する個体 えるもの 複数の人・物
集合名詞	構成する個体 れるもの 概念だけではなく 抽象名詞
抽象名詞	概念だけではなく 抽象名詞
固有名詞	個を他と識別する 固有名詞

限定詞

限定詞は、概念に時間空間的な範囲を与える。したがって限定詞の付いていない名詞は、実体を持たない抽象名詞に限定詞が付く。

a, an	同種のものが複数存在する
the	物質名詞の実体や地球のように見える実体、普通名詞
some	もう実体を表す。
any	普通名詞や物質名詞の区別する限定詞
所有格	a の強調形で、「1つでも」 my や your や someone's の

基本文

①主語 + 自動詞

I walk.

②主語 + 他動詞 + 目的語

文に対する態度など

評価や態度

happily, clearly, luckily, oddly,
wisely, strangely etc.

視点

personally, officially etc.

so ~ that

The quiz is so difficult that they can't answer it. の so は difficult という形容詞の程度（それくらい難しい）を表す副詞で、thatは結果を受ける接続詞で、合わせて「とても～なので～」という意味になる

接続詞と同様に文と文の関係を示す連結副詞

so

I felt tired, so I went to bed. の so は、対立しない順行の関係を表す

however

John is old. He, however, go swimming every day. の however は対立する逆行の関係を表すが、however は but のように 2つの文を直接繋ぐことはなく、次の文中（文頭とは限らない）に置く

時制の一致と話法

「時制の一致」は、引用される文の時点が基準になる時制の、日本語との対比から来た「文法」で、英語は引用される文も話している時点から見た時制となる

話法

He said, "This is my favorite CD now." のように引用符を使って、発言をそのまま伝える表現を直接話法といい、それに対し、He said (that) that was his favorite CD then. のように、話す人が発言を言い換えて伝える表現を間接話法という

間接話法は発言を話す人の立場から言い換えるもので、通常次のような言葉は言いえられ、時制は話す人の時点から見た時制になる

直接話法	間接話法
this	→ that
these	→ those
here	→ there
now	→ then
~ ago	→ ~ before
last ~	→ the last ~
today	→ that day
tomorrow	→ the next day または the following day
yesterday	→ the day before または the previous day
last night	→ the night before または the previous night

分詞構文

Feeling happy, I smiled at her. (うれしかったので彼女に微笑んだ) のような文を「分詞構文」といい、理由・状況・条件などの「状況補語」を表す

分詞構文は、副詞節の主語と接続詞を分詞だけで表現する

Feeling happy という分詞の部分の表しているものは、あくまでも「うれしく感じている」ということで、二つの部分の関係を読む側の常識に委ねる、論理的には曖昧な文的表現

受動態の分詞構文

⟨being +過去分詞⟩ Being eaten with rice, it is really good.

⟨being +省略され⟩ Eaten with rice, it is really good.

文の外側のテキストのレベルから文に情報を追加するもの

評価や態度 happily, clearly, luckily, oddly, wisely, strangely etc. (文頭に置かれる場合が多い)

視点 mentally, morally, officially, strictly etc. (文頭に置かれる場合が多い)

疑問副詞

how (様態・手段)、where (場所)、when (時)、how (程度: how +形容詞・副詞)、why (原因と理由) という、様々な疑問を表現するもの

疑問副詞の使われる場合

疑問文 Where do you live?

名詞節 I don't know where you live.

I break the glass

③主語 + 自動詞 + 前置詞

I listened to the

④主語 + 他動詞 + 間接目的

I gave him a book

It takes me an hour

修飾の原則（前から変更後ろから説明）

red という語が後に続く flower の概念を変更

This is a red flower.

red という語が前にある This flower を説明

This flower is red.

名詞の状態・性質を表す

より意味が通れば付け加えられる

主語、動詞、目的語は原形

須要素であるとともに、

There + 動詞文

英語には主語があり、それは会話当事者同士の関心事である「主題」のこと

会話当事者の片方が新情報を会話に持ち込むとするとき、新情報は一方の当事者しか知らないことなので主題にはなれず、主語になれない

新情報を会話に持ち込むときは、次のように there + 動詞文を使って新情報を話題として持ちこむ

Once upon a time there lived a kind old man. という文の there という代名詞は、「存在という主題」を表す「主題としての主語」と解釈してよい

there を副詞とするならば、A kind old man lived there. が倒置された特殊な文で、動作主としての主語は a kind old man であると解釈してもよい

there + 動詞文は新情報を話題にするときの特別な文なので、*There was the kind old man. のように the を使うような既知の情報は普通 there + 動詞文には使えない

比較

比較級や最上級のつくり方

一般的には比較級には er を付け、最上級には est を付けて作るが、つづりが長いものは語の前に比較級は more を最上級には most を付ける

規則変化するそれらの語とは異なり、不規則変化する語もある

「～と同じくらい…」 <as +原級+ as～> I am as tall as my father.

「～よりも…」 <比較級+ than～> John is older than Jack.

「～でいちばん…」 <(the +最上級+ in[of] +～)> Mt Fuji is the highest in Japan.

最上級の the は、1つに決まる実体としての山 (the highest mountain) を表しているから付くのであって、最上級の規則だから付けているわけではない。したがって Mt. Fuji is highest at this point. や I am happiest when left alone. のように、1つに決まる実体を表していない場合には the は付かない

目的語の後に不定形や分詞が来る文

知覚動詞の構文

I saw a frog jump into the old pond. の I saw a frog までが第一の文で、a frog jump into the old pond が第二の文。第二の文全体が saw の目的語になっていると解釈すると分かりやすい。

使役動詞の構文

I made him call you back. も I made him までが第一の文で、him call you back までが第二の文で、第二の文全体が made の目的語になっている

語のレベルで情報を付け加えるもの

動詞に情報を追加

動詞に動作の方向を付け加える副詞

動詞の直後または動詞の目的語の後 (代名詞の場合)

He put down his bag. He put it down.

名詞に情報を追加

形容詞 (語の定義を変更する modifier としての使い方)

modifier としての形容詞は、名詞の直前に来る

sweet orange

限定詞

限定詞は修飾語としての形容詞の前に来る

a sweet orange

語に「語としての程度」を与える、程度の副詞は語の前に来る

a very sweet orange

副詞の一種としての predeterminer は、限定詞の付いた名詞の前にくる

次の例文の quite は「語としての程度」を与える程度の副詞の仲間

quite a sweet orange

名詞を後ろから修飾する前置詞句あるいは形容詞、形容詞の場合は関係代名詞と be 動詞が省略されていると解釈できる

the apple on the table

the apple red in the light the apple (which is) red in the light

「時」とは、Betty saw the movie yesterday のように、動作の起こる時刻を表したりのように期間を表すもの

「場所」とは、I'm home. (私は家に居る→や、I live in Tokyo. のような、存在や動作)

「様態」とは、Mary danced gracefully. のもので、Mary danced with grace. と前置

「量と強め」とは、Thank you very much 30 kilometers のように、文全体 (別の見詞) の程度を示すもの

その他にも、I go running once a day. の

「手段と道具」とは、Jack went to Tokyo by computer. などの、by train や on my computer の際の、手段や使用する道具を表すもの

「同伴」とは、Betty went to Tokyo with me. 「誰かと一緒に」という状況をつたえるもの

「原因」とは、Mr. Ford died of cancer. のた原因を表すもの

原因は、前置詞句だけではなく、He said 統詞を使っても表せる

「目的」は、She bought the book in order to do something と似ているところがあるが、「原因」た的」は未実現の事柄が対象になる

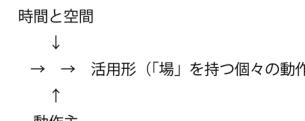
動詞・助動詞

動作の移る動詞、移らない動詞

自動詞	intransitive verb	移らない性質の動詞→動作の対象を直接取らない I shot at the sheriff. 保安官を狙って弾を撃った。(当たったかどうかは不明)
他動詞	transitive verb	移る性質の動詞→動作の対象を直接取り、原則的には動作が対象(目的語) I shot the sheriff. 保安官を撃った(弾が当たった)

不定形と活用形

不定形	動作の概念を表す
活用形(定形)	個々の動作を表す



to- 不定詞

to- 不定詞の to の感覚は、前置詞の to と同じ「到達」の感覚を表し、活用形の動詞の「場」から不定形の動詞の「場」へ到達することを表している

I want to drink water. want という活用された動詞のつくる「場」から drink という不定形の動詞が実際の動作になるときの「場」へ到達することを表す

Do you like English? Do という助動詞のつくる「場」に like という不定形が含まれるために to が付かない

to- 不定詞の表す「～すること」という表現は、動作の概念を表すため、どこか現実感が薄い表現となる

分詞と動名詞

動詞の動作の局面を表したもの	分詞といい、動作の開始から終了までのことを表すものを動名詞という
現在分詞	動作中の状態を表す
過去分詞	動作後の状態を表す

動名詞 動作の開始から終了までのことを表し、開始から終了までという時間の要素を持っているので、生き生きとした表現になる

受動態

動詞の動作が目的語に移る、「他動詞」動作文(能動態)を、動作を受けた目的語を主語にして状態文として表現したものを受け動態とい

能動態 John broke the glass.

受け動態 The glass was broken by John.

時制

英語が動詞の活用として表現できる時制は、現在と過去の2つだけ
そのほかに現在時制を使った、未来を表す言い方がある

過去	動詞の有標形(過去形)を使って表現する
現在	動詞の無標形(現在形)を使って表現する
未来	will のような法助動詞で動詞の不定形を包み込んで表現 I will go. be going to のあとに動詞の不定形を続けて表現 I am going to go. 現在進行形を使って表現 I am leaving Japan tomorrow. 現在形を使って表現 I leave Japan tomorrow.

過去形はより根本的には動詞の有標形であるので、いきなり「過去」と捉えるのではなく、まず「有標」と捉え、「有標」の中から過去が浮かび上がるようになることが大切

動作動詞の現在形は実際の動作を表さず、概念としての動作を表す
現在形は、時の流れとは無関係な真実や現在の習慣・状態、あるいは劇の台本の書きのようにあたかも目の前で行われている光景などを表す

進行形と完了形

進行形	be 動詞を使った存在文に、動詞の動作中の状態を表す現在分詞を付け加え、動作中の状態を表したもの
完了形	have(持っている)という助動詞を使い、動作の終了した状態を表す過去分詞を have という助動詞が保有するというところからその時までに過去分詞の動作が行われたことを表す

仮定法

仮定法の「法」とは、仮定のことを表す「方法」のことではない
「法」とは、英語で mood(ムード、気分)と言いい、文の表すことに対する話者の心理的なカテゴリーを表す文法用語

(a) If I were a bird, I would fly to you. (もし僕(私)が鳥だったらあなたのところに飛んで行くのに)

(b) If I had studied hard, I would have passed the examination. (もし僕(私)が一生懸命勉強していれば試験に合格していたのに)

例文の斜体で示したところが仮定法で、were, would, had という有標形で表現されている

いずれも事実とは異なる仮定を述べたり、事実とは異なる仮定から導かれた結論を述べる心理的抵抗感が有標形を取らせている

一般的な表現方法である直接法は、事実を述べる時に使われるのに対し、仮定法の有標形は「実際はそうではない(なりそうもない)のだけれど...」という意識を文に乗せる形で、「過去」など時間軸上の位置を表しているわけではない

助動詞

助動詞は、活用して「場」を作り、他の動詞を包み込むカプセルを作る
Do you like English? は、Do you / like English? ということ

will や may や must のような助動詞は、人の頭の中での判断を表す可能性などを表す法助動詞で、話者という一人称の判断を表すので、三人称単数に付いても法助動詞は助動詞 does のように変化しない。

法助動詞の中核になる感覚は次の通り

can(潜在性), will(推測・意志・傾向), shall(それ以外に道はない), must(高い圧力(主観的)), have to(高い圧力(客観的)), may(開かれた道), should(must の弱まつもの), ought to(should とほぼ同じ), used to(現在と対比しての過去の習慣や状態)

英語の勉強をするときはこのシートを机の上に広げて、このシートの上で勉強して下さい。

分からない文法があるときは、このシートですぐに確認できます。

文法分析で英文を読むときは、1単語ごとに、その品詞の使い方をこのシートで確認します。

このシートに書かれている文法を暗記する必要はありません。

1語ごとに確認することにより、あなたの頭が英語がわかる頭に変化していきます。

英語学習シートの使い方

状況補語

基本文に状態・性質を表す語を付け加えた、基本文型に自由に追加できる部分を状況補語とい

状況補語は Mary danced gracefully. の gracefully

のところに副詞を挿入したり、介助詞を

疑問文

否定文

のように副詞で表したり、I live in Tokyo. の in Tokyo のように前置詞句あるいは接続詞に導かれた從属節によって表され、時、場所、様態、量と強め、手段と道具、同伴、原因・理由、目的、材料、行為者、「matter」、価格、衣服、反対、状況、比較など基本文型で表すことのできること以外の事柄を表す

英語では、骨格となる基本文型と必要に応じて文に自由に追加できる状況補語とで、あらゆる事柄を表現する文を作る

ay. や、I get up at 6 in the morning. など
John stayed in Japan for three month.

日本語の「ただいま」にあたる決まり文句
の場所を示すもの

gracefully ように、動作の様子を示した
詞句を使って表現することもできる

ch. of much や I walked 30 kilometers. の
方をすれば文をコントロールしている動

ように頻度を表すものもこれに含まれる

yo by train. や、I wrote the letter on my
computer で示されるもので、動作が行われ

her father. の with her father のように、

cancer のように、動作や状況の起こっ

d that because he was angry. のように接

er to study Spanish. のような文で、「原因
が過去の事実を示しているのに対し、「目

「材料」を表す前置詞は、from、of、in などがある
Wine is made from grapes.

The houses are made of red brick.
It is done in the latest fashion.

「行為者」は、The glass was broken by John. のように、受身文における行為者を表すために、前置詞 by を使って示される

「matter」は、何かに関して、というテーマを表す
前置詞としては、about と on という前置詞が使われる
Helen's told me about you.
He spoke on the new computer software.

「価格」を表す状況補語には、at と for という前置詞が使われる
I bought the stock at 10,000 dollars.
I bought the shoes for 20 pounds.

「衣服」には、in という前置詞が使われる
The lady was dressed in fur.

「反対」には、against という前置詞が使われる
I did it against my will.

「状況」は、「どういう状況にあるか」ということを示すもの
The patient is in danger.

「比較」には、as ~ as を使ったものと than を使ったものとがある
He is as tall as his father.
Work is less pleasant than play.

Yes/Noで答える疑問文

疑問文は、主語、動詞、目的語という「基本的な」英語の語順を壊した一種の強調文として作られる

Yes/Noで答える疑問文は次の2つ

1. be動詞の疑問文 be動詞を主語の前に置き、補語を主語の後に置く
Are you a student?
2. 一般動詞の疑問文 助動詞を主語の前に置き、動詞の不定形を使った述語部分を主語の後に置く
Do you like English?

疑問詞のある疑問文（具体的な返答を求められている疑問文）

疑問文の中の疑問詞は、必ず平叙文の主語や目的語といった文の要素にあたる

(a) What

仮の疑問文 You have what? (You have a book.)

疑問文 What do you have? (何を持っているのですか?)

(b) Which

仮の疑問文 You like which, large cars or small cars? (You like small cars.)

疑問文 Which do you like, large cars or small cars? (大きい車と小さい車のどちらが好きですか?)

(c) Who

仮の疑問文 You like who(m)? (You like John.)

疑問文 Who(m) do you like? (誰を好きなのですか?)

(d) When

仮の疑問文 You started the job when? (You started the job yesterday.)

疑問文 When did you start the job? (いつ仕事を始めたのですか?)

(e) Where

仮の疑問文 You live where? (You live in Tokyo.)

疑問文 Where do you live? (どこに住んでいるのですか?)

(e) Why

仮の疑問文 You went to Morioka why? (You went to Morioka to eat "wanko-soba".)

疑問文 Why did you go to Morioka? (なぜ盛岡に行ったのですか?)

(f) How (状況補語としての手段)

仮の疑問文 You got that how? (You got that from the Internet.)

疑問文 How did you get that? (どうやってそれを手に入れたのですか?)

(g) How (程度の副詞)

仮の疑問文 You have how many cars? (You have five cars.)

疑問文 How many cars do you have? (何台車を持っているのですか?)

主語を訊ねる疑問文

助動詞 do を使う強調文にならない Who said that?

付加疑問文

You are a good singer, aren't you? (歌が上手ですか？違いますか？→歌が上手ですか？) や You aren't a good singer, are you? (歌が上手ではありません、上手ですか？→歌が上手ではないですね) のように、確認したり同意を求めたりする疑問文を付加疑問文といふ

命令文の付加疑問文 let's ~の付加疑問文	will you? を付ける shall we を付ける 答えかた	Help me, will you? Let's go, shall we? Yes, let's. または No, let's not.
----------------------------	---	--

notを使う否定文は次の2つ

1. be動詞の否定文 be動詞の後に not を付ける
I am not a student.
 2. 一般動詞の否定文 主語の後に助動詞と not を置き、動詞の不定形を使った述語部分を not の後に置く
I don't like English.
- 否定疑問文 Don't you know me? 確認や驚きなどを表すため使われる
- 部分否定 I don't like all of them. のように all、every、always のような全体を表す語を含む否定文は、一部を否定することを表す部分否定になる

命令文

Get out! のように主語のない文で、いきなり動詞の不定形から始まる
命令文の要求する動作はまだ動作としては現実に起こっていないため、現在形や過去形のように活用された形はとれず、動詞は活用されていない不定形となる

否定の命令文は、Don't be late. のように「Don't + 動詞の不定形」で表現される

命令文+ and/or の形

Study hard, and you will pass the examination. そうすれば
Hurry up, or you will miss the train. そうしないと

感嘆文

英語の基本的な語順を壊した強調表現で、自分の感想を豊かに表す
How + 形容詞 [副詞] + 主語 + 動詞 How beautiful she is.

「どれくらいきれいなのだろう彼女は」というような感覚

What (+ a[n]) + 形容詞 + 名詞 + 主語 + 動詞 What a beautiful flower this is.

日本語でも強い驚きを表す時「何？」と叫ぶことがあるのと同じ感覚

英語学習シート

ダウンロード URL

<http://www.kyoiku.co.jp/gakusyusheet.pdf>

Copyright INOUE Kenji 2017

初版発行 2017年9月30日